

| | | | | | |
|------|--------|-----------|------------|--------|-----|
| 講義名 | ビジネス会計 | | | 授業形態 | |
| 担当教員 | 孫 美晃 | 開講期・曜日・時限 | 後期 金曜日 2時限 | | |
| | | 単位数 | 2 | 履修開始年次 | 2年生 |

主題と概要

企業の実態を把握するためには非財務情報の分析も当然ですが、財務情報を抜きにして企業の経営状況を語ることはできません。財務情報もしくは会計情報は企業の実態を説明する一種の言語というところで、しばしば「ビジネス言語」と言われています。国際人として活躍するには英語や中国語などの語学力を身に付ける必要があるのと同様に、ビジネス・パーソンとして活躍するには「ビジネス言語」である会計の知識を身に付ける必要があります。会計は入口のところに専門用語の壁があるので、難しく考えられがちですが、その専門用語の壁さえ乗り越えれば、会計の面白さが実感できると思います。本講義では会計の役割、日本の会計制度と会計基準を巡る近年の国際的な動向の概要、財務諸表の基本的な仕組みについて解説します。

到達目標

- ・会計制度は重要な社会的インフラであることが理解できるようになります。
- ・代表的な財務諸表の基本的な仕組みが理解できるようになります。
- ・基本的な財務分析の指標が理解できるようになります。

提出課題

ほぼ毎回の講義で課題の提出を求めます。課題は仕訳、財務比率に関する計算問題が多く出題されます。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

課題回収後は、解答と解説を配布します。内容によっては、口頭で再度解説する場合もあります。

評価の基準

平常点（課題ほぼ毎回）60%、定期試験40%の割合で評価を行います。

履修にあたっての注意・助言他

本講義は簿記の基本的な知識を有することを前提に講義を進めます。「基礎簿記」を履修済み、「商業簿記」を履修済みもしくは履修中であることが望ましいです。

教科書

.使用しない。

参考図書

| | | | | |
|---|-------------|------|------|--------------|
| .財務会計・入門（第19版）：企業活動を描き出す会計情報とその活用法。 | 桜井 久勝・須田 一幸 | 有斐閣 | 1980 | 978464122248 |
| .ケースでまなぶ財務会計 第9版：新聞記事のケースを通して財務会計の基礎をまなぶ。 | 永野 則雄 | 白桃書房 | 3100 | 978456135228 |

その他

<プリント資料>
講義中、配布します。

授業計画

- 第1回 ガイダンス・意思決定と会計情報
予習内容：キャンパルクロスからの講義案内を熟読し、Teams上のクラスに登録する。また、誰がどのような目的で財務諸表を利用するのかについて事前に調べる。(120分)
復習内容：講義内容を復習し、理解を深める。また課題に取り組み。(120分)
- 第2回 会計の役割
予習内容：参考図書などを利用して、財務会計の役割、会計情報の特性、会計基準の役割について、事前に調べる。(120分)
復習内容：講義内容を復習し、理解を深める。また課題に取り組み。(120分)
- 第3回 日本の会計制度
予習内容：参考図書などを利用して、粉飾決算、会計監査、内部統制報告制度について、事前に調べる。(120分)
復習内容：講義内容を復習し、理解を深める。また課題に取り組み。(120分)
- 第4回 会計基準を巡る国際的な動向 - IFRSを導入するメリット
予習内容：参考図書などを利用して、国際会計基準を導入するメリットについて、事前に調べる。(120分)
復習内容：講義内容を復習し、理解を深める。また課題に取り組み。(120分)
- 第5回 会計基準を巡る国際的な動向 - EUとアメリカにおけるIFRSへの取り組み
予習内容：国際会計基準はどの国がリーダーシップが持っていて設定しているのかについて、事前に調べる。(120分)
復習内容：講義内容を復習し、理解を深める。また課題に取り組み。(120分)
- 第6回 会計基準を巡る国際的な動向 - 日本、韓国、中国におけるIFRSへの取り組み
予習内容：日本の会計基準設定はその国の影響を受けているのかについて、事前に調べる。(120分)
復習内容：講義内容を復習し、理解を深める。また課題に取り組み。(120分)
- 第7回 貸借対照表 - 簿記の五つの要素
予習内容：参考図書を利用して、貸借対照表と損益計算書の定義、仕訳について予習する。(120分)
復習内容：講義内容を復習し、理解を深める。また課題に取り組み。(120分)
- 第8回 貸借対照表 - 貸借対照表の区分表示
予習内容：参考図書などを利用して、資産と負債の流動と固定の分類について予習する。(120分)
復習内容：講義内容を復習し、理解を深める。また課題に取り組み。(120分)
- 第9回 貸借対照表 - ケース
予習内容：第7回と第8回の講義内容を目を通す。(120分)
復習内容：講義内容を復習し、理解を深める。また課題に取り組み。(120分)
- 第10回 貸借対照表 - 資産の評価
予習内容：参考図書などを利用して、取得原価、時価、公正価値評価という用語について事前に調べる。(120分)
復習内容：講義内容を復習し、理解を深める。また課題に取り組み。(120分)
- 第11回 貸借対照表 - 純資産の区分、安全性分析
予習内容：参考図書などを利用して、純資産の区分、自己資本比率、流動比率とは何かについて事前に調べる。(120分)
復習内容：講義内容を復習し、理解を深める。また課題に取り組み。(120分)
- 第12回 損益計算書 - 損益計算書の区分表示と収益の認識
予習内容：参考図書などを利用して、損益計算書の区分表示、実現主義とは何かについて事前に調べる。(120分)
復習内容：講義内容を復習し、理解を深める。また課題に取り組み。(120分)
- 第13回 損益計算書 - 費用の認識
予習内容：参考図書などを利用して、発生主義、費用収益対応の原則とは何かについて事前に調べる。(120分)
復習内容：講義内容を復習し、理解を深める。また課題に取り組み。(120分)
- 第14回 損益計算書 - 収益性分析
予習内容：参考図書などを利用して、収益性分析、売上高経常利益率、売上高純利益率について事前に調べる。(120分)
復習内容：講義内容を復習し、理解を深める。また課題に取り組み。(120分)

授業形態（アクティブ・ラーニング）

| | |
|---|---|
| <input type="radio"/> ア：PBL（課題解決型学習） | <input type="checkbox"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） |
| <input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート | <input type="checkbox"/> エ：グループワーク |
| <input type="radio"/> オ：プレゼンテーション | <input type="checkbox"/> カ：実習、フィールドワーク |
| <input type="checkbox"/> キ：その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合） | |

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

- 卒業認定・学位授与の方針（1）との関係：会計の初歩的な知識になるため業界の動向や問題点を理解するまでには至らないが、会計制度の必要性や財務諸表の基本が理解でき、財務的な視点から問題点を分析することの重要性が理解できます。
- 卒業認定・学位授与の方針（2）との関係：企業経営における重要な目的の一つに利益の追求があげられるが、利益を計算する仕組みについて理解することができます。卒業認定・学位授与の方針（2）との関係：初歩的なレベルではあるが、財務的な側面から具体的な改善策や解決策の提案ができます。
- 卒業認定・学位授与の方針（4）との関係：企業経営における重要な目的の一つに利益の追求があげられるが、利益を計算する仕組みについて理解することができます。卒業認定・学位授与の方針（4）との関係：財務的な側面から企業が直面するグローバルな問題点について理解することができます。
- 卒業認定・学位授与の方針（5）との関係：企業の財政状態、経営成績について初歩的な分析をすることができます。卒業認定・学位授与の方針（5）との関係：初歩的なレベルではあるが、財務的な側面から企業が直面する問題や強みを発見することができます。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

双方向授業の実施：講義中、教員からの質問に対し自らの考え方を整理し、発言する機会はほぼ毎回あります。
ICTの活用：Teamsを利用します。

実務経験の有無及び活用

実務経験あります。
実務経験が本講義の内容と直接関連するわけではないですが、受講生に刺激になると思われるエピソードがある場合は適宜紹介していきたいと思ひます。

備考